

令和4年度第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和4年9月15日(木) 15:30~17:30
- 2 場 所 パーティーギャラリーイヤタカ
- 3 出席者 高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、
児玉委員、安部委員、伊藤委員
- 4 検討結果 原木については、今年は夏期においても民有林からの出材が順調であった。そのため、冬期から原木の集荷に力を入れていた合板工場や製材工場では適正量以上の在庫を抱えているところが多く、一部では原木の受け入れ制限を実施している。また、一部の素材生産業者には伐採調整の動きも見られる。
一方で、8月の集中豪雨による被害が各地で報告されている。管内の東北5県では、9月1日現在で民国合わせて林地崩壊148箇所37億円、林道被害1,640箇所44億円もの大規模な被害が発生しており（8月3日からの大雨被害分）、素材生産量の減少、立木販売契約箇所の搬出延期が見込まれる。
原木・製品価格は、コロナ禍以前の水準に比べ依然高値を継続しているが、7月以降は、各製材工場や港における在庫過多に加え、川下では住宅着工の減少も重なり荷動きが鈍い状況も見受けられる。
しかし今後は、フレート高や円安等の外材輸入に不利な情勢が継続することで、国産材の引き合いは強まっていくと想定される。加えて、豪雨災害の影響による出材量の減少等も見込まれており、総じて管内における国産材の需給は引き締まりに向かうことが予想される。
以上のことから、国有林に対しては、「豪雨被害による影響も考慮し、現時点での供給調整は求めないが、引き続き民有林材の出材状況、木材の輸出入状況、住宅着工数等について注視しつつ、原木の供給と調整及び立木販売を機動的に行うことができる体制を継続するよう求める。」と報告する。
- 5 局としての供給調整の対応方向
現時点において国有林材の供給調整は行わない。
- 6 主な意見
 - 例年通り夏以降は出材量が減少すると推測していたが、夏期に入っても出材量は落ちることなく推移している。各工場の在庫は満杯であり、受け入れ制限等により入荷量を抑えている。今後一定の在庫を消費するまでは入荷を大きく緩和することはないと予想されるが、もし豪雨の影響で出荷量の減少が続いた場合は原木の引き合

いが強まる可能性もある。

- 製紙用広葉樹原木の入荷量は非常に少なく、今後も大きく改善する見込みはない。燃料用原木も入荷量は少ないが、在庫は十分に確保できている。ただ、バイオマス発電所の新設などで年々需要量が増加する一方で供給量はほぼ一定であり、長期的な需給バランスが保てるのか疑問である。集成材は今後ダブついた輸入製品の在庫処分が予想され、国産集成材の需給動向への影響を注視する必要がある。
- 6月までは素材生産者の納入希望量と加工工場からの発注量がほぼ同程度であったが、7月に入って生産希望が過多になっている。さらに8月は受入日が制限され、この傾向が強くなっている。今後製材品の流通により在庫が解消に向かうことを期待する。併せて、価格の安定、国産材の生産が維持できるよう行政自らの需要喚起による出口対策をお願いしたい。価格維持は高性能林業機械への投資、立木等の購入意欲に直結する鍵である。
- 地場工務店の仕事量が少ない状態が続いている中で、さらに住設機器の納品遅れが工期の遅れにつながり、全体の停滞感を強くしている。製材品は買方の当用買いが続いており、少ない流通量の中で値段は高値横ばいで推移している。チップ用原料は入荷が鈍く、価格は高値で安定している。今後いかにして安く集荷していくかが課題である。
- 原木は各製材工場で確保できている。一方で虫害が発生する時期であるため多くの原木在庫を持たない工場もあり、そうした工場では需要に即応した対応が困難になっている。製材工場にとっては原木の安定確保が大きな課題であり、今後数年の間に原木消費量が拡大していくことが予測される中で、安定的に原木を確保できる体制等の整備が求められる。
- 中国のロックダウンが解除されたことで中国向け原木輸出が再開されているが、中国国内の経済回復が遅れていることや建築需要が減退していることから、輸出量は大幅に減少している。今後は円安等の要因が輸出に追い風となることが期待される。流入の進む中国産針葉樹合板については、価格の柔軟性はあるものの品質面の問題から苦戦を強いられている。
- 大雨による被害はあったが、素材生産への大きな影響は無い様子である。ただし、ぬかるみ等で作業効率が低下している状況が続いている。製品は、前年比では大幅に出荷量が落ちているが、需要期のため荷動きが完全に止まっているわけではない。国産材製材工場では製品在庫が増えているが、一時的に運転資金の補助があれば製品相場の下落は抑えられるのではないかと考える。
- 現在の丸太・製品価格は高値で推移しているが、コロナショック以前は再造林もままならないような価格水準であった。東北における中長期的な林業・森林資源の見通しを考える上でも、適正な価格水準について考えていくことは必要である。また、東北でも輸出が伸びてきているが、東北圏内の需要量が供給量を上回っている現状で、今後いかにして輸出に木を割り振っていくのか注目している。